



## 「町民主役のまちづくり」

### 声を聴き、共に歩む八雲へ」

八雲町長

萬谷 俊美  
よろず や とし み

このたび、多くの町民の皆さまから温かいご支援とご厚情を賜り、八雲町政を担わせていただくこととなりました。皆さまから寄せられた大きな期待の重さに身の引き締まる思いでありますとともに、八雲町の未来を皆さまと共に築いていくことに、深い責任と決意を抱いております。これまで行政の現場で培ってきた経験を最大限に生かし、町民の暮らしに寄り添う町政運営に努めてまいります。

今日、全国的に少子高齢化や人口減少が進む中で、八雲町もさまざまな課題に直面しています。合併から20年を迎え、かつて2万人であった人口は現在1万4千人台となりました。人口減少は、地域を支える産業力の弱まり、これまで困ることのなかった町民の活動にも影響が生じてくるなど、まち全体の活力が減退

する大きな課題であります。

まず、町民の皆さまから寄せられている「移動に関する不安」への対応は、最優先で取り組むべき課題です。運転免許証を返納された方や、通院・買い物などに不便を感じている方が安心して生活できるように、移動手段の確保に向けた検討を進め、実証試験など必要な取り組みを早急に進めてまいります。

また、八雲町の基幹産業である農林水産業の振興への対応は、地域の豊かな資源を守りながら、後継者の育成や新たな産業基盤の強化を図り、地域全体が活気に満ちた力強い産業へと成長できるよう努めるとともに、食や物産、観光資源といった八雲ならではの魅力を広く発信し、町内外の交流人口を増やす施策を進めていきたいと考えております。

次に、誰もが安心・安全で

暮らせるまち・安心して子育てできるまちの実現についても取り組むべき課題が多くあると感じております。結婚・出産・子育てと続いていく中で、家庭と仕事の両立、心ゆとりをもつて子育てができるよう、各ライフステージに応じた支援を実施するとともに、若者が未来に希望をもつてこのまちに住み続けられるような政策を展開してまいります。

八雲総合病院、熊石国民健康保険病院は、町民が地元で安心して受診できる重要な医療機関ですが、公立病院の経営は全国的に厳しさを増している状況にあります。二次医療圏域の人口が急速に減少している中、今後の医療提供体制と病院経営の安定化に向けた議論を進めてまいります。今年度からは新庁舎建設の大規模事業が予定されており、物価高騰など経済情

勢の変化が著しく、先の見通せない状況が続いております。こうした中でこそ、将来に向けて計画的な行政運営が求められており、この度の選挙結果は、私に「しっかりとやってくれ」とのご下命と受け止めております。

いずれにしても町政には多くの課題がありますが、その解決の鍵は、町民の皆さまの声に耳を傾け、共に考えながら進めていくことにあると考えております。私の基本姿勢である「町民主役のまちづくり」は、町民一人一人の声を町政の原点とするものです。現場を訪ね、対話を重ねながら、町民と行政が力を合わせ、より良い八雲町の未来を築けるよう全力で取り組むことを誓い、就任の挨拶いたします。



副町長に  
竹内 友身氏が  
選任されました。



11月11日、選挙後初となる八雲町議会第3回臨時会が開会され、竹内友身氏が議会の同意を得て、11月17日に副町長に就任されました。

竹内氏は、平成3年に八雲町職員として採用されて以降、平成28年に住民生活課長、平成29年に政策推進課長（当時、企画振興課長）、令和3年に総務課長を歴任されていきます。

行政委員の長が  
選出されました

○選挙管理委員会委員長  
服部由美子氏  
はっとり ゆみこ

○代表監査委員

千田 浩文氏  
ちだ ひろのり